

# ひとひと 女と男いきいきネット

ひとひと  
女と男いきいきネットワーク久喜・通信第26号 2017, 2, 1 発行

研修部  
学習会



女と男（ひととひと）いきいきネットワーク久喜では、毎年秋に研修部を中心にして学習会を行っています。が、今年には外部研修ということ、午前中は嵐山の国立女性教育会館（NFECC）の視察と講義聴講、午後は埼玉伝統工芸会館での紙すき体験を企画しました。

十一月二十五日に市のバスを利用し、ネットワークの会員二十二名と市職員二名が参加しました。圏央道ができたことで、十時前には国立女性教育会館に着き、まずは施設を見学しました。ポランティアの方が案内してくださいましたが、当日は秋晴れで園庭の紅葉が赤く映え銀杏の黄色と鮮やかなコントラストをなして、心が洗われる思いが

『女性の貧困』〜誰も置き去りにされない社会づくりに向けて

国立女性教育会館事業課専門職員

引間 紀江さん

しました。とくに茶室の風景は、京都にでも来ているかのような錯覚を覚えました。また企画展示室では、『寄席で演じる』チャレンジした女性たちからチャレンジする女性たちへ』というテーマで、東京の落語・講談・浪曲界で演者として活躍された女性たちの資料や写真を見ることができました。会場

で『寄席で演じる』インタビュー集』を無料でいただきましたが、男性中心の落語界では、平成五年に古今亭菊千代（師匠：円菊）さんと三遊亭歌る多（円歌）さんが女性で初めて“真打ち”になったそうです。が、その時は





年だそうです。「元々落語は男のもので、そこに女が居場所を作ろうとするなら、すべてにおいて最善を尽くして努力をしなければならぬ」と、柳亭こみち(二つ目)さんはその厳しい修業を語っています。ただ、浪曲と講談に関しては、昔から女性の演者の方も多く、最近では男性よりも女性のほうが多いそうです。

題ですが、講義ではデータに基づく現実の厳しさを目の当たりにしました。

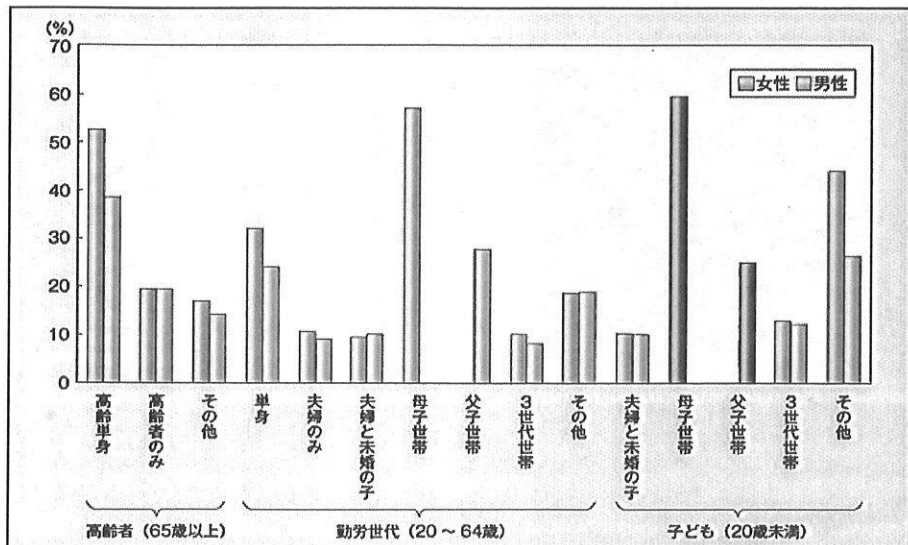
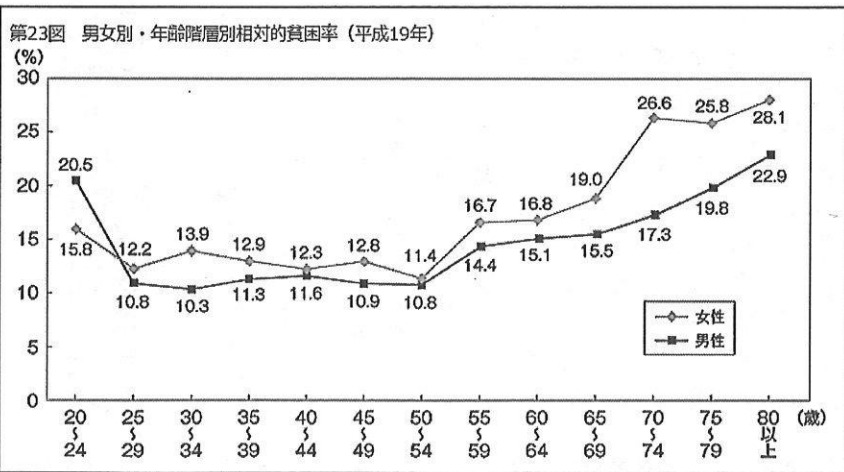
まず貧困には、「絶対的貧困」(食料、水、衣類、住居など人間の生存に必要な基本的要素が欠如した状態)と「相対的貧困」(世帯の可処分所得人員の平方根で割り調整した所得の中央値の半分に満たない状態)があり、今日日本で問題になっているのは「相対的貧困」

だそうです。二〇一二年の日本の貧困線は百二十二万円で、相対的貧困率は十六・一%。また、二〇一五年「国民生活基礎調査」所得の中央値が四百二十七万円であるのに対して、二百万円以下は約二〇%にもなるとのこと。

男女別・年齢階層貧困率をみると、二〇〜三〇代と高齢者の女性の貧困率が高いことが下記の【図①】のグラフでもわかります。若い女性の貧困率は、①二〇〜三〇代の未婚率の上昇、②非正規雇用率の増加、③親世代の貧困率上昇などがその原因です。高齢女性の場合は、その背景に①育児や介護などでの就業の

中断、②税制・社会保障制度の影響による就業調整の影響、③低収入で不安定な非正規雇用につきやすい就業構造、④女性の年金水準等の低さ、⑤高齢期の経済的基盤の弱さ等の問題があるとのこと。また、下記の【図②】を見ると、世帯類型別では、高齢者や勤労世代の単身世帯で貧困率が高く、中でも女性の方

が厳しい状況にあるのがわかります。特に母子世帯で貧困率が高く、その影響が母子世帯の「子どもの貧困」にもつながっているのです。平成二十二年、児童のいる世帯の年間収入(平均)が六五五万円に対し、父子世帯が四九一五万円、母子世帯は二九一



が非正規職だとのこと。この背景には、①「固定的性別役割分業」(「男は仕事・女は家庭」「男性は主要な業務・女性性は補助的業務等」等の固定的な考え)や②「雇用環境の変化」(根強く残る男性中心型労働慣行や短時間労働者に不利な制度)があると言われています。そして、誰も置き去りにされない社会づくりに向けて、①社会の風潮や制度の改革、②具体的なサポートプログラム、③同じ立場の人のつながりが必要だということを学びました。

午後は、埼玉伝統工芸会館和紙工房にて「紙すき体験」をし、思い思いの葉書や色紙を作りました。(進藤)



## 団体から



### 「春の舞踊会」を四月に開催!

久喜舞踏協会 亀田久二子

当舞踊協会は、昭和六十二年創立。久喜文化団体連合会に参加して、毎年「春の舞踊会」を開催し、今年三十周年を迎えました。

当会の活動は、会員による恒例の発表会「春の舞踊会」。秋には、文化団体連合会に所属する民謡、カラオケ、吟詠、舞踊の四団体による合同文化祭の開催。一月には市民芸術祭が実施されますが、これは公募により選出された団体のみ出演できるもの。他に、ボランティアで慰問は年五、六回、養老院、デイサービス等に行きます。また、久喜東小學校へは放課後子ども教室(ゆうゆうプラザ)にて日本舞踊を教えています。このゆうゆうプラザ創設より十年になります。毎年開催される

生涯学習推進大会『まなびすと久喜』や二月の公民館まつりで舞台発表をさせていただいています。

また先般、久喜中学校より授業の一環として日本舞踊の指導の依頼があり、歴史から所作・実技と指導を考えています。四〇〇年の歴史ある日本舞踊を体験してもらい、舞踊の素晴らしさを次の世代に引き継いでいく人が一人でも



増えていくってくれたら嬉しい限りです。今後も、地域の皆さまに楽しんでいただけるよう、会員相互の技芸の研究に邁進していきたいと思えます。今年度の「春の舞踊会」は、平成二十九年四月二日(日)久喜総合文化会館小ホールにて開催します。ご来場くださいますよう、お願い申し上げます。





## NPO法人チャレンジ 『みんなの学校』上映会

昨年の十二月十五日、今年の久喜市女と男共生セミナー委託事業の一つとして、NPO法人チャレンジ(代表・小林芽美さん)による『みんなの学校上映会』が久喜総合文化会館小ホールにて行われました。

NPO法人チャレンジは、「久喜市とその隣接市町村の障害児・者が、より多くの人に理解され、自立した生活を送れるよう、誰もが豊かに暮らせる地域社会を創造すること」を目的とし、障害児の親御さんたちが立ち上げた団体です。当日は、立ち見も出るほどの満員の中で上映され、久喜市教育長や多くの市会議員さんも参加されていました。

映画『みんなの学校』は、「インクルーシブ教育」を実践する大阪市立大空小学校のドキュメンタリー映画です。全校児童二二〇名のうち、

特別支援の対象となる児童数が三〇人を超える学校ですが、大空小学校では、「自分がされていやなことは人にしない」というたった一つの校則と、「すべての子どもの学習権を保障する」という教育理念のもと、障害のある子どももいない子どももすべての子どもが、ともに同じ教室で学んでいます。全校児童の二割以上が支援を必要とする子であるにも関わらず、不登校児はゼロ。他の小学校で、厄介者扱いされた子どもも、この学校の学びのなかで、自分の居場所を見つけ、いきいきと成長します。また、まわりの子どもたちも、そのような子どもたちとのかかわりを通して、大きな成長を遂げていきます。

たくさんの地域ボランティアの方々が授業のサポートをしていて、地域の人と協働

し、開かれ学校づくりを実践しているのです。

『一人ひとりが主役』という言葉を使うのはやさしいけれど、実践するのは難しいことです。でも、人は自分にスポットがあたり自分が認められとき、嬉しくなります。そして、自分に自信を持ちます。そんな場面がたくさんつくられたら、人生楽しいだろうな?と思うと同時に、教育長が挨拶のなかで「久喜市では、先日指導主事たちが大空小学校に視察に行きました。久喜市でも、インクルーシブ教育を実現していきたいと思いま



す」とおっしゃった言葉に希望を抱き、そんな学校が地域みんなで作れるといいなあと思いました。

### 【編集後記】

昨年の十二月に悲しい知らせが入りました。女と男いきいきネットの広報部で、設立以来ともに活動してきた柳ひろ子さんの突然の訃報でした。私と同じ年齢で、少ない広報部員のなかでいつも編集会議には出席され、編集後記や報告文・エッセイなどを書いてくださいました。書記係も一緒にやりました。

越谷の小学校の教員を長らくされ、定年後は地域活動を!ということで、当会のみならず市民会議や青少年育成会、最近では民生委員にも委嘱されました。穏やかで温厚な性格で、彼女といるとフワァーとした優しい空気に包まれ心が安らぎました。

葬儀の何日か前、彼女の枕元に民生委員の委嘱状が届きました。やりたいことがもつとたくさんあったでしょうに……、無念です。合掌



(進藤敬子)

### 【発行】

女と男いきいきネットワーク久喜  
代表 倉持睦子(22)4545